

Field/分野: Reading

グループ・プレゼンテーションを取り入れた
時事英語リーディング授業の試み

佐々木大介（北星学園大学）

1. はじめに

現在、「時事英語」「メディア英語」に関連する英語科目が多く大学の開講され、教科書もさまざまな種類が発売されている。しかし、市販されている教科書は、上級向けのもの少なく、掲載されている英文もリライトをしてレベルを下けているものが多いようである。本発表では、グループ・プレゼンテーションを通じて、インターネットなどから収集した英文記事を読み進めていく授業の試みについて報告する。

2. 受講生と授業の目標

「英語ワークショップ」（旧名「上級英語演習」）は、本学文学部英文学科の3・4年生を対象とする英語実技科目（選択科目・通年）で、3セッション開講されている。筆者が担当するセッションはハイレベルのリーディングクラスで、受講生は約40名である。受講生の英語運用能力に差は見られるが（TOEFL PBT 450点から550点程度〔iBT 46点から80点程度に相当〕）、「文学部英文学科」に所属する英語を専攻する学生ゆえ、英語およびその関連諸分野への関心はおおむね高いと思われる。

本授業は「高度な英文読解力を身につける」ことを目的としている。文章全体の大まかな意味は何となくつかめても、一文ずつの意味をきちんと理解できていない英文学科生が多かったことから、英文の構造や構文を理解させ、単語や熟語などの語彙力を養成することを主眼に、英字新聞や英文雑誌の記事などさまざまな英文素材を精読することによって、高度な英語読解力を身につけることを最終的な目標とした。具体的には、実用英語技能検定（英検）準1級から1級、TOEFL PBT 600点以上（iBT 100点以上に相当）、TOEIC 860点以上の読解力が身につけられることを期待した。

3. 授業の手順

授業は、前期の前半は教師である筆者が中心となって授業を展開し、前期の後半以降はグループ・プレゼンテーションを通じ学生が中心となって授業を展開した。

前期授業の最初の数回は、平井正朗（監修）・正村佳紀（編著）の『新聞英語の読解ストラテジー—21世紀のグローバルな文化交流に備えて』（英潮社）を用い、英字新聞の記事に見られる構造や語法の特徴について解説を行なった。その後は、この学習をふまえ、数回にわたって実際の英文記事を読んでいった。教材となる英文記事は、英字新聞（*The Japan Times*、*Daily Yomiuri*、*International Herald Tribune/The Asahi Shimbun*、*The New York Times* など）、*The Associated Press*、*Reuter* などの通信社配信の記事、英文雑誌（*Time* など）や、これらのオンライン版から最新のものを選んだ。記事の解説は、前項で述べたように、英文の全体的構成や構造、構文を理解させることを主眼にし、重要語、未習語、関連語、熟語と

9月6日(日) 13:10-14:10 RDG7 D41

いった語彙力の増強に配慮した。

前期の後半以降は、学生が中心となって英文記事を読み進めていった。受講生を3、4名のグループに分け、各グループは以下のスケジュールに沿ってプレゼンテーションの準備を進めた。

- 1) **発表の2週間前**：グループの各メンバーは、プレゼンテーションで取り上げたい記事を選び、教師に提出する。学生が興味を持てる分野であれば、トピックはどのようなものでもよく、記事は上に述べた英字新聞や英文雑誌から探す（ただし、日本語版が販売されている *Newsweek* は不可とする）。記事の長さは、1回の授業で完結させることを考慮し、最大800語程度とする。
- 2) **発表の1週間前**：教師は、トピックや長さなどを考慮して、提出された記事の中からプレゼンテーションで取り上げる記事を決定する。
- 3) **発表の3日前**：各メンバーは、英文記事の日本語訳を作成し、教師に提出する。
- 4) **日本語訳提出後**：各メンバーは、各自が提出した日本語訳を持ち寄り、グループとしての日本語訳を作成する。作成したグループの日本語訳は発表当日に配布する。また、グループとしての発表をどのように行なうか、打ち合わせを行なう。
- 5) **発表当日**：60分程度でグループ・プレゼンテーションを行なう。残りの時間で、グループ発表で足りなかった点、補足すべき点などを、教師が解説する。

4. 考察

授業で取り上げる英文記事を教師ではなく学生が選んだものを使用したことにより、特にプレゼンテーションを行なった学生は、自ら学んでいこうというモチベーションを高めることができたようである。教師が英文記事を選ぶ際、教師はなるべくトピックに偏りがないようにと気を遣っているつもりでも、やはり多少のバイアスは避けられない。今回、学生が選択したいくつかの記事から教師が取り上げる記事を決定したことで、学生が読みたいと思う記事選びができたのではないかと考える。また、授業に参加する受講生は、自分の友人たちがプレゼンテーションを行なっているという思いからか真面目に取り組んでいたようで、教師が教えるよりはかえって効果があったように見えた。

市販の大学英語教科書には豊富な解説が含まれる「教授用資料」がついてくるが、今回のケースでは最新の英文記事を選んで教材としたため、そのような資料はまったくない。したがって、この授業では教師の英語力が問われることになり、そういう意味で教師には非常にチャレンジングであるといえる。

本授業では高度な英語読解力を身につけることを最終的な目標としたが、受講生の中には英検準1級合格者や TOEIC 800点以上を獲得した者も一部出てきた。一般的に、英文学科の学生は、英語力を限りなく伸ばしたいと考えている者が多いが、そのような学生の希望を満足させるにはどうしたらよいか今後の課題としたい。